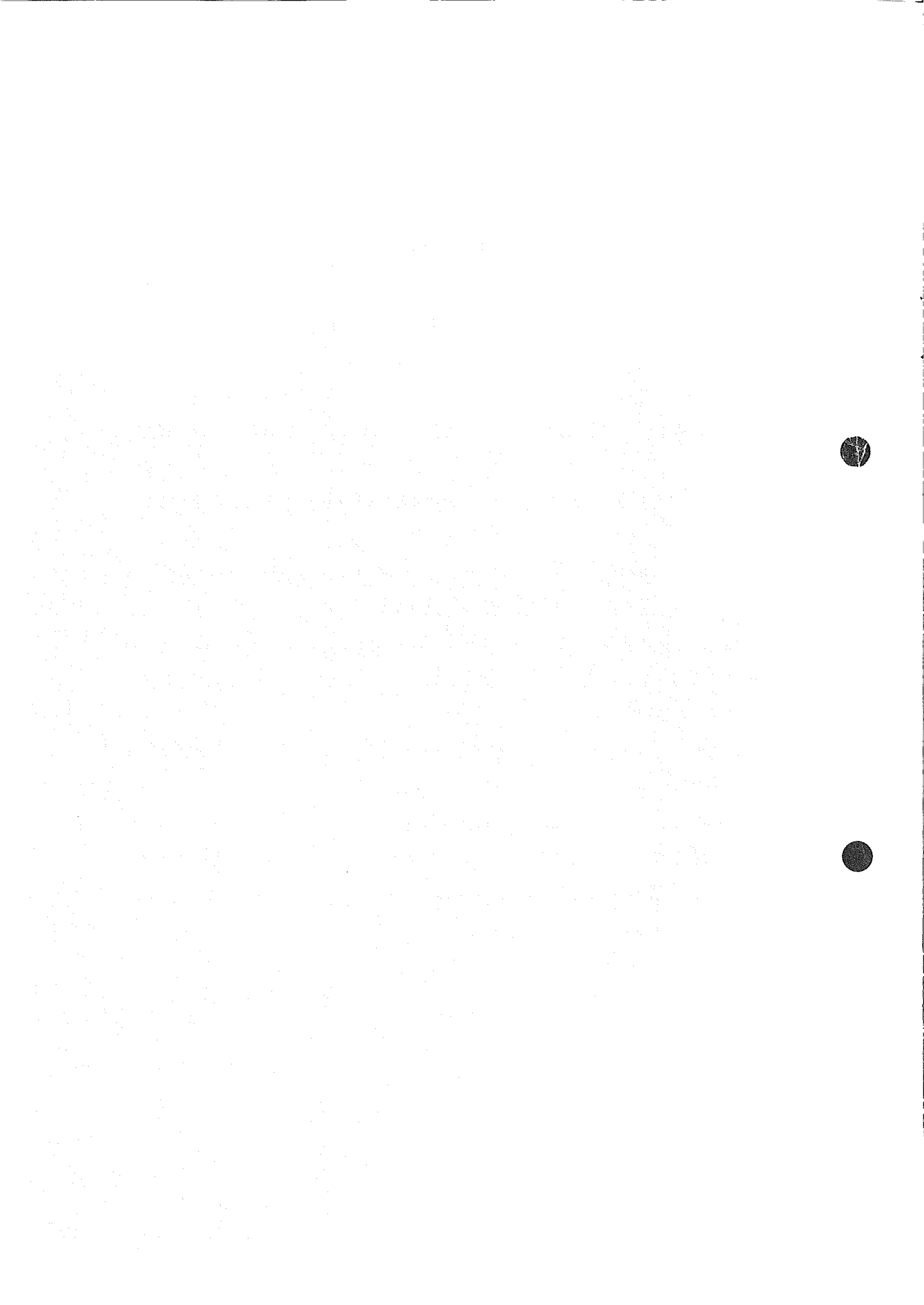


## 2017 年度 入学 試験 問題

# 世界史 B

(試験時間 13:15~14:15 60分)

1. この問題冊子が、出願時に選択した科目のものであることを確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入およびマークしてください。解答欄以外への記入およびマークは無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。
5. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きに使用しないでください。
6. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入およびマークしてください。
7. マーク解答用紙への受験番号の記入およびマークは、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。



I 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

15世紀末からの<sup>①</sup>大航海時代、スペインは国土回復を達成すると、ジェノヴァ出身の船乗り  を「アジア」へ向けて派遣した。 は1492年8月にスペインのパロス港から出発すると、大西洋を西に進んだ。1492年10月にカリブ海域のサン=サルバドル島に到達すると、 はそこをインドの一部と考えたが、実際にはそれは「新大陸」アメリカの一部であった。

<sup>②</sup>この時すでにアメリカ大陸には、先住民が高度な文明を誇る諸国家を形成していた<sup>③</sup>が、スペイン王室は「征服者」(コンキスタドル)の率いる軍隊をおくりこみ、先住民国家の征服に乗り出した。1521年に  が現在のメキシコに存在した王国を征服し、ついで1533年、 が現在のペルーを中心とする帝国を滅ぼした。こうしたスペイン人による先住民国家の征服と、先住民社会の伝統文化を破壊する行為が精力的に行われた15世紀末から16世紀前半頃の時期は、ラテンアメリカ史上、「征服の時代(世紀)」ともよばれている。

征服の時代を切り開く役割を果たしたのは、勇敢で野心的な「征服者」らであったが、スペイン王室は次第にその行動に枠をはめながら植民地統治体制を確立していった。スペイン王室は当初レパルティミエント制という割り当て制度を導入し、植民地の土地と先住民をスペイン人植民者に分割した。しかし、これによって先住民が労働力として酷使され、さらにヨーロッパからもたらされた伝染病などにより人口を激減させると、スペイン王室は新たな制度を導入した。ここで新たに導入された  制では、植民者は征服地の土地と住民の統治をスペイン王室から委託され、先住民をキリスト教に改宗させ「保護する」ことを条件に、労役させる権利を認められた。だが実際には、ほとんどの場合「保護する」という義務は果たされず、先住民は植民者によって強制的に労働させられ、虐待される存在であり続けた。スペイン人たちが先住民を奴隷か動物のように残虐に扱う様子に心を痛めていた修道士  は、先住民の惨状を国王に報告し、制度の廃止を訴えた。ただし、 制は、先住民人口の激減によって利用価値がなくなり、一般的には自然に消滅していった。この制度の衰退とほぼ並行して形成されたのが、大土地所有制としての  制である。また先住民に代わる労働力として、アフリカから黒人奴隷が導入された。当時アフリ

<sup>④</sup>

かに植民地を持たなかったスペインは、ポルトガルやオランダ、フランス、イギリスなどの外国商人と、アシエントとよばれる黒人奴隷貿易の請負契約を結んだ。強制的につれてこられた黒人奴隷は、ブラジルやカリブ海地域で発展した砂糖生産のための大農園である  で使役された。

16世紀後半になると、スペインによる植民地支配の統治機構が整備され、ラテンアメリカのスペイン植民地では、ペニンスラールとよばれる本国出身の白人を頂点とする厳しい人種的身分制社会が形成されていった。スペイン人社会の拡大によって食糧の需要が高まり、さらに先住民人口が激減したことにより、土地が容易に取得できる状況となったため、 の形成は急速に広がった。

18世紀は、ラテンアメリカ史上「反乱の世紀」ともよばれており、この時期のスペイン植民地では頻繁に大規模な反乱が起こるようになった。背景には、200年におよんだ植民地支配の圧政から生じたさまざまな問題があったが、その後の独立運動の直接の契機となったのは、ナポレオンによるイベリア半島侵略である。これによって植民地を支配していた本国の力が弱まると、 とよばれる植民地生まれの白人層を中心とする独立運動が展開された。この地域をとりまく国際情勢も独立運動に有利に働き、19世紀前半には、ラテンアメリカの多くの国が独立した。独立運動の中心となったのが、あくまで白人富裕層だったため、独立後も先住民・混血・黒人など貧困層の人々の状況は好転せず、貧富の格差に苦しみ続けた。ラテンアメリカの多くの国では、独立後も保守派と自由主義派との間で、政治体制やカトリック教会の地位をめぐる対立が続き、およそ半世紀にわたって混乱をきわめた。この混乱の時代は、独立戦争で発言力を強めた軍事的実力者である  どうしの抗争のため不安定であった。

【設問Ⅰ】 上記の文章の空欄  ～  に入るもっとも適当なカタカナの語句を記述解答用紙に記入しなさい。

【設問Ⅱ】 前の文章の下線部①～⑧に関する以下の問の答えをマーク解答用紙にマークしなさい。

問1 下線部①に関する記述として誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) バルトロメウ=ディアスは、ジョアン1世の命により、大西洋とインド洋を結ぶアフリカ南端の岬に到達した。
- (b) ヴァスコ=ダ=ガマは、リスボン港を出発し喜望峰を經由してカリカットに到達し、インド航路開拓に成功した。
- (c) ポルトガルの「航海王子」エンリケは、セウタ攻略に参加した後、アフリカ西岸探検を進め、インド航路開拓への道を開いた。
- (d) マルコ=ポーロの『世界の記述（東方見聞録）』は、アジアに関する記録として当時ヨーロッパの人々の間で広く読まれ、西洋人の東洋への関心を高めた。

問2 下線部②に関する記述として誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) イギリス王ヘンリ7世の後援を受けたカボット父子は、西回りでアジアを目指し、北米沿岸に到達した。
- (b) 「アメリカ」という名称は、ブラジル海岸を探査し、その地がアジアではなく「新大陸」とであると確信したアメリゴ=ヴェスプッチにちなんで付けられた。
- (c) ポルトガルとスペインとの間にトルデシリャス条約が結ばれ、アフリカ西岸ヴェルデ岬西方約550 kmの子午線を境に、東がポルトガル領、西がスペイン領と定められた。
- (d) 「太平洋」という名称は、南米大陸南端のマゼラン海峡を抜けた後、フィリピンにいたるまでの海が比較的穏やかであったことから、マゼラン（マガリャンイス）が名付けた。

問3 下線部③に関する記述として誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) チャビン文明は、メキシコ湾岸で成立し、ジャガー崇拝、ヒスイ（宝石）の重視、巨石人頭像を残したこと等で知られる。
- (b) マヤ文明は、ユカタン半島で発展し、ピラミッド状の建築物、二十進法による数の表記法、精密な暦法、象形文字などをもつ独自の文明を発達させた。
- (c) テオティワカン文明は、メキシコ高原に成立し、黒曜石製品の交易で栄え、羽毛の生えた蛇神など、彼らの信仰した神々はメソアメリカ全体に広まった。
- (d) インカ文明は、現在のペルーを中心とするアンデス一帯で発展した。キープ（結<sup>けつ</sup>縄<sup>じょう</sup>）と呼ばれる、縄の色や結び方で統計や数字を記録する伝達手段を用いていたことでも知られる。

問4 下線部④に関する記述として誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) ハイチでは、トゥサン=ルヴェルチュールの指揮のもと、黒人奴隷の武装<sup>ぼうき</sup>蜂起<sup>ほうぽつ</sup>が勃発し、1804年には、フランスからの独立が達成された。
- (b) イギリスは1807年に奴隷貿易を禁止し、1833年に奴隷解放法を成立させ、有償方式によってイギリス帝国全域の奴隷制を廃止した。
- (c) アメリカでは、1863年に共和党のリンカンが奴隷解放宣言を発表し、南部の州と地域の奴隷を自由にすると宣言した。
- (d) ブラジルでは、1888年に奴隷制の廃止が決められ、翌年帝政から共和制に移行した。

問5 下線部⑤の人物に関する記述として誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) 1799年、革命暦テルミドール9日のクーデタによって統領政府を樹立し、自らが第一統領に就任した。
- (b) 1798～99年、イギリス・インド間の連絡路遮断<sup>しゅたん</sup>を目的とするエジプトへの遠征を指揮した。
- (c) 1801年、ローマ教皇との間に協約を結び、カトリック教会の復権を承認した。
- (d) 1815年、エルバ島を脱して復位し、一時的にフランスを支配した。

問6 下線部⑥について、アメリカの対ラテンアメリカ政策に関する記述として誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) 大統領モンローは、西半球に対するヨーロッパ諸国の非植民主義および非干渉主義、ヨーロッパの国内問題に対する合衆国の不干渉主義の3原則を1823年の年次教書に盛り込み、ラテンアメリカ諸国の独立を間接的に支援した。
- (b) 大統領マッキンリーは、キューバの独立運動に乗じて、1898年にアメリカ=スペイン戦争を起こし勝利すると、フィリピンやプエルトリコなどスペイン領植民地を獲得するとともに、キューバを事実上の保護国とした。
- (c) 大統領タフトは、中米カリブ海地域および東アジアに対する外交を「弾丸に代わりドルをもって」実施すると宣言し、経済的金融的手段を活用した。
- (d) 大統領ローズヴェルトは、中米カリブ海地域に積極的に軍事介入し、1903年にはコロンビアからパナマを独立させ、パナマ運河建設の権利を獲得した。

問7 下線部⑦に関する記述として誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) 中央アメリカ連邦（中央アメリカ連合）は、後にグアテマラ・エルサルバドル・エクアドル・ニカラグア・コスタリカの5共和国に解体した。
- (b) アルゼンチンは、ラプラタ連邦としてスペインから独立し、その後約半世紀間の政治的混乱を経て、国家統一を達成した。
- (c) ベネズエラは、独立革命を経て、大コロンビア共和国の一部として独立後、大コロンビア共和国の解体とともにベネズエラ共和国として独立した。
- (d) ペルーは、サン=マルティンの指導で独立を宣言し、最終的にシモン=ボリバルの解放軍がスペイン軍を破り、ペルー共和国として独立を達成した。

問8 下線部⑧に関するメキシコの記述として誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) メキシコは、北部国境地域での戦争で負け、カリフォルニアとテキサス両地方をアメリカに割譲した。
- (b) 先住民出身のメキシコ大統領ファレスは自由主義派政府を指導し、ナポレオン3世の送り込んだフランス軍を破り、マクシミリアン皇帝を処刑した。
- (c) クーデタによって大統領の座についたディアスは、独裁体制のもと、外国資本を導入して経済発展をはかった。
- (d) メキシコ革命において、初期の段階で活躍した自由主義者マテロが暗殺されると、革命派の中でも、サパタやビリャ率いる農民革命派とカランサ率いる立憲派が対立し内戦状態となった。



II 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(32点)

ヨーロッパは19世紀の<sup>いつとき</sup>一時、オーストリアの  が主導したといわれるウィーン体制の維持の下で、国家間の勢力均衡が保たれて比較的安定した状態にあった。しかし、ウィーン体制も徐々に揺らぎはじめ、その体制が崩壊し、また19世紀前半から後半にかけては、各々の領土・勢力圏・植民地などをめぐっての列強の対立が生じ、クリミア戦争など各地で戦争や紛争が頻発して、同盟等による協調関係やその解消が顕著になっていった。<sup>①</sup>

列強はアフリカの分割についても激しく対立していた。1884年から1885年にかけて、<sup>②</sup>ビスマルクの提唱により  が開かれると、列強は<sup>またた</sup>瞬く間にアフリカを植民地化していった。1898年には、イギリスとフランスがスーダンで武力衝突した  事件が起きたが、フランスは譲歩し、ドイツの進出に対抗して1904年に  を結んで、アフリカにおけるそれぞれの支配的地位を認めあった。他方、ドイツはアフリカ進出にあたって、モロッコに目をつけ、1905年と1911年にモロッコ事件を起こすが、事件後に同国をフランスが保護国化したため、事実上失敗に終わっている。

イギリスは<sup>⑦</sup>いかなる国にも与せず、同盟を締結しない立場を保っていたが、1902年の日英同盟によりその立場を捨て、その後1907年には英露協商を成立させ、イギリス・フランス・ロシアによる提携関係を構築し、これによりドイツ・オーストリアとの対立の構図が鮮明となっていった。そして、3B政策を推し進めるドイツと、3C政策を進めるイギリスおよび南下政策を進めるロシアとの間のこれら列強の対立は、「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれたバルカン半島における一連のバルカン戦争の<sup>③</sup>後に、一段と激化していくことになる。

そのような中、1914年6月28日にオーストリアの帝位継承者夫妻が  の州都で暗殺される事件が起きて、オーストリアの政府は、 の政府に最後通牒<sup>ちよう</sup>を突きつけたが回答がなかったため宣戦布告し、その後同盟国側と連合国側にわかれて各国が参戦することにより、人類史上最初の世界戦争である第一次世界大戦の火蓋<sup>かた</sup>が切られることになった。ドイツは中立国であるベルギーに侵入し、シュリーフェン・プランにより短期決戦でフランスを撃破しようとしたが、その<sup>もくろみ</sup>目論見は外れ、各<sup>④</sup>

地で戦いが起きて、この戦争は予想外の長期戦になった。大戦が膠着<sup>こうちやく</sup>状態になり、各国の国民をも巻き込んだ国を挙げての総力戦となる一方で、同盟国側も連合国側も中立国を味方につけようと、戦後の領土や植民地の分配について秘密外交<sup>⑤</sup>を積極的に展開した。

さらに連合国側は経済封鎖という手段で、ドイツを含む海外との貿易を断絶、ドイツもこれに対抗して、敵陣営の船舶を無警告で攻撃する  を 1917 年 2 月に敢行<sup>かんこう</sup>し、アメリカの参戦を誘発する一因となった。アメリカは当初、「勝利なき平和」を唱えた  大統領が参戦に消極的であったため中立を保っていたが、同年 4 月に宣戦布告し、これが戦局の転換に大きな影響を与えて、同盟国側の諸国は次々に降伏していくことになった。

ロシアでは 1917 年 11 月に十月革命が起こり、その後 1918 年 3 月にソヴィエト政権がドイツと  を締結し、戦争から離脱した。さらに同年 9 月にはブルガリア、翌月にはオスマン帝国、オーストリアが相次いで降伏した。長期にわたる戦争で疲弊<sup>ひへい</sup>したドイツでは、同年 11 月に  港で水兵たちが反乱を起こし、各地で労働者や兵士が蜂起して、皇帝ヴィルヘルム 2 世はオランダに亡命し、ドイツ共和国が成立し、11 月 11 日にパリのコンピエーニュの森で停戦協定が結ばれて、ここに第一次世界大戦は終結を迎えた。

大戦終了後には、膨大な犠牲を生んだこの悲惨な戦争を繰り返すことのないよう、集団保障という理念で世界平和の維持が試みられたのも束の間、その後人類は再び世界戦争への道を歩むことになる。

【設問 I】 上記の文章の空欄  ~  に入るもっとも適当な語句を記述解答用紙に記入しなさい。

【設問 II】 波線部⑦について、イギリスがとっていたこの立場を何と呼んだかを記述解答用紙に記入しなさい。

【設問Ⅲ】 前の文章の下線部①～⑤に関する以下の問の答えをマーク解答用紙にマークしなさい。

問1 下線部①について、クリミア戦争に関する以下の文のうち、誤っているものを1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。なお、該当するものがない場合には(e)をマークしなさい。

- (a) この戦争は、聖地イェルサレムの聖地管理権問題をめぐってロシアとオスマン帝国の対立により1853年に起きた。
- (b) イギリスの看護師であったナイティンゲールは、陸軍の要請によって1854年にこの戦争の戦地に赴き、戦傷兵の看護活動に献身した。
- (c) この戦争における最大の攻防戦は、ロシアが誇るセヴァストーポリ要塞で繰り広げられ、同要塞が陥落した翌年1856年のパリ条約によりこの戦争は終結した。
- (d) この戦争の開戦時のロシア皇帝はニコライ1世であったが、戦争中の1855年に死亡したため、アレクサンドル2世が即位した。

問2 下線部②について、列強によるアフリカの植民地分割の先鞭をつけた探検家は誰か。以下の中から1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- (a) クック
- (b) ゴードン
- (c) リヴィングストン
- (d) スタンリー
- (e) タスマン

問3 下線部③について、第1次バルカン戦争および第2次バルカン戦争に関する以下の文のうち、誤っているものを1つ選びマーク解答用紙にマークしなさい。なお、該当するものがない場合には(e)をマークしなさい。

- (a) 第1次バルカン戦争では、オスマン帝国が敗北し、ロンドン条約でバルカン半島の大部分を割譲した。
- (b) 第2次バルカン戦争で、第1次バルカン戦争後の領土分配をめぐって、ルーマニアとオスマン帝国はブルガリア側に加わって参戦した。
- (c) ロシアの後押しにより、セルビア、モンテネグロ、ギリシア、ブルガリアの4国がバルカン同盟を結成し、オスマン帝国に対して宣戦した。
- (d) ブルガリアは第2次バルカン戦争の敗北により、マケドニアなどの領土を失い、その後ドイツ、オーストリア陣営に接近した。

問4 下線部④について、第一次世界大戦中の以下の戦いで、戦いが始まった順にならべたものとしてふさわしいものを1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- (a) マルヌの戦い→ソンムの戦い→タンネンベルクの戦い→ヴェルダンの戦い
- (b) タンネンベルクの戦い→マルヌの戦い→ヴェルダンの戦い→ソンムの戦い
- (c) ヴェルダンの戦い→タンネンベルクの戦い→ソンムの戦い→マルヌの戦い
- (d) ソンムの戦い→マルヌの戦い→ヴェルダンの戦い→タンネンベルクの戦い
- (e) マルヌの戦い→タンネンベルクの戦い→ソンムの戦い→ヴェルダンの戦い

問5 下線部⑤について、以下の約束のうち、イギリスの外相がユダヤ人の国家建設を認めたものを1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- (a) ロンドン秘密条約
- (b) バルフォア宣言
- (c) サイクス・ピコ協定
- (d) インド自治の約束
- (e) フセイン・マクマホン協定

III 「東アジア世界」の形成に関する以下の文を読んで、下記の設問に答えなさい。

(34点)

東洋史学者の西嶋定生<sup>にしじまきだお</sup>氏は、\*「東アジア世界」という歴史的な世界を以下のように規定した。まず、この歴史的な世界は、中国文明の発生とその展開を基軸として形成されたものである。黄河の中流域に発生した中国文明は、それ自体の質的发展の過程において、<sup>①</sup>華北から華中・華南へと領域を拡大して中国全土に及んだ。この中国文明の展開にともなって、その影響はさらに周辺諸民族にもおよび、そこに中国文明を中心とする自己完結的な文化圏を形成した。具体的にいうと、このような「東アジア世界」とは、中国を中心とし、これにその周辺の朝鮮・日本・ヴェトナムおよびモンゴル高原の中間の西北廻廊<sup>かいろう</sup>地帯東部の諸地域<sup>②</sup>を含むものである。しかしそれが歴史的な世界であるということからも推察されるように、その領域は流動的であって、固定的に理解すべきものではないとする。

さらに、このような歴史的な文化圏としての「東アジア世界」を構成する諸指標として、漢字文化、儒教、律令制、仏教<sup>③</sup>の四者をあげる。漢字文化は、中国において作製された文字である漢字が、中国において使用されるだけでなく、これと言語を異にし、しかもいまだ文字の使用を知らない隣接諸民族にも伝来<sup>③</sup>された。これによってこの世界における相互の意志伝達を可能にし、また中国の思想・学術の伝播をも可能としたのである。そしてつぎの儒教・律令制・仏教の三者はいずれもこの漢字を媒体としてこの世界に拡大された。儒教は、春秋時代の孔子の教から始まって、漢代になって国教化され、以後ながく中国王朝の政治思想となった。これが周辺諸民族とくに朝鮮・日本に伝えられて、その国家の政治思想あるいは社会倫理思想に影響を与えた。律令制は、中国で出現した政治体制で、皇帝を頂点とする支配体制が、完備された法体系によって運用されるというものである。これが朝鮮・日本・ヴェトナムなどにも採用され、そこに「東アジア世界」に共通する政治体制上の特徴となった。最後に仏教<sup>④</sup>はいうまでもなくインドから中央アジア経由で中国に伝来されたものである。この中国化した仏教が朝鮮・日本・ヴェトナム等に伝えられ、そこに東アジア仏教圏ともいうべき文化圏を形成し、宗教としての仏教のみならず、これにともなう建築・彫刻・絵画等の仏教美術も普及させたのである。

では、なぜ中国周辺の特定期間だけで共通の文化圏を形成できたのだろうか。西嶋氏は、こうした中国文化圏を形成する条件として、中国を中心とする国際的な関係、周辺諸民族・諸国家との国際的な政治関係に着目する。秦を滅ぼした漢王朝は、中央から官吏を派遣して直接支配する郡県制とならんで、皇帝の一族や功臣などに王とか侯といった爵位を授けて国という封土を<sup>ほうど</sup>与える春秋時代以前の封建制を復活させた。これを郡国制という。この郡国制で部分的に復活させた封建制を異民族の国家に適用して、周辺国家の首長に、王や侯といった官爵（官職・爵位）を与えることで、中国の皇帝と諸民族首長が君臣関係を結ぶ形式が誕生する。これを、西嶋氏は「冊封体制」と名付けた。ここでいう冊封とは、官爵の授受の際に皇帝から与えられる冊命（任命書）によって封じられる任命行為にもとづいている。こうした冊封体制は、さらに中国を中心とする中華思想と、徳を備えた中国の皇帝の徳化によって理想の秩序が実現するとする王化思想によって支えられた。つまり、周辺諸国の首長が中国皇帝の徳を求めて朝貢し、これを中国皇帝が冊封することにより、冊封された国が中国文化を受容し、ここに中国文化圏が形成されたといえる。

その後「東アジア世界」は、唐の滅亡によって国際的な政治秩序としては崩壊したとみなされるが、宋代以降も依然と中国の王朝が経済的・文化的中心としてあり、特に明代には冊封体制と<sup>かんごうぼうえき</sup>勘合貿易体制を結合して、政治的国際機構としても再興し、清代にはさらにそれが拡大されたという。このように性格は変化するものの「東アジア世界」は存続し続けたといえる。この「東アジア世界」が政治的にも経済的にも、あるいはまた文化的にも、崩壊するのは、19世紀に至ってヨーロッパ資本主義の波が及んだときである。これは「東アジア世界」が崩壊するのみではなくて、あらゆる地球上の諸世界が崩壊し、併存した諸世界がひとつの世界に転化結合された。これにより二千年ちかくにわたった自律的な完結性をもつ歴史的世界としての「東アジア世界」は消滅したとみなされる。

\*西嶋定生著、李成市編『古代東アジア世界と日本』岩波現代文庫、2000年刊行。

【設問Ⅰ】 下線部①～⑦に関連して、以下の問の答えをマーク解答用紙にマークしなさい。

問1 下線部①に関連して、中国文明の発生に関する以下(a)～(d)の文で誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがなければ(e)を選びなさい。

- (a) 中国最古の文明である彩陶文化は、スウェーデンの地質学者アンダーソンが河南省の仰韶村の遺跡から、前5000～前4000年ごろの彩陶土器を発掘したことで発見され、仰韶文化ともいわれる。
- (b) 黒陶文化は、河南・山東省など黄河下流域を中心に遼東半島から長江下流域まで広く分布して遺跡が発見されており、山東省の竜山鎮で最初に発見され、竜山文化ともいわれる。
- (c) 1973～74年の発掘で発見された浙江省の河姆渡遺跡からは、木造住居址や彩陶・黒陶土器、稲もみなども発掘され、この遺跡は、長江下流域に黒陶文化が広がったことを明らかにしている。
- (d) 現在確認される最古の王朝は、殷（商）で、河南省で発見された殷墟からは、甲骨文字を刻んだ大量の亀甲、獣骨や王墓および宮殿跡が発掘された。

問2 下線部②の中国文化を取り入れていった周辺諸国に関連して、以下(a)～(d)の文で誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがなければ(e)を選びなさい。

- (a) 唐と連合して百済・高句麗を滅ぼした新羅は、朝鮮半島の大部分を支配し、唐の官僚制を導入して、国家体制を整備した。しかし社会の基盤は、骨品制といわれる氏族的な身分制度であった。
- (b) 高句麗滅亡後の中国東北地方に建国した渤海は、都城制など唐の制度・文物を積極的に取り入れ、仏教も盛んで、「海東の盛国」と呼ばれた。
- (c) 7世紀中ごろ、唐とチベットとの抗争を機に、雲南地方に建国されたチベット=ビルマ系の回紇は、唐から漢字・儒教・律令制を取り入れ、9世紀に全盛期を迎えた。
- (d) 日本は、遣隋使・遣唐使をおくって中国文化の輸入につとめ、大化改新を経て律令国家体制を整えていった。さらに唐の長安にならった都市計画のもと、藤原京や平城京が建設され、ここで国際的な唐の文化の影響を受けた天平文化が栄えた。

問3 下線部③に関連して、次の(a)~(d)のうち、漢字から派生していない文字を1つ選びなさい。なお、該当するものがなければ(e)を選びなさい。

- (a) 契丹文字 (b) 西夏文字 (c) 満州文字 (d) 女真文字

問4 下線部④に関連して、次の(a)~(d)の4名の僧のうち、インドからの渡来僧でないものを1名選びなさい。なお、該当するものがなければ(e)を選びなさい。

- (a) 仏図澄 (b) 鳩摩羅什 (c) 達磨 (d) 玄奘

問5 下線部⑤に関連して、次の(a)~(d)のうち、漢の武帝の対外政策として誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがなければ(e)を選びなさい。

- (a) 東北方面で、匈奴の東部勢力を攻撃するために衛氏朝鮮を攻略して楽浪郡など4郡をおいた。  
(b) 西北方面で、甘肅地方を奪って敦煌郡など4郡をおいた。  
(c) 中央アジア方面(西域)で、大宛に遠征などして、タリム盆地の諸都市にまで支配を広げた。  
(d) 南方で、秦末に自立した南越を滅ぼして南海郡など9郡をおいた。

問6 下線部⑥に関連して、次の(a)~(d)のうち、中国に朝貢していない国を1つ選びなさい。なお、該当するものがなければ(e)を選びなさい。

- (a) シヤム (b) チャンパー (c) 大越 (d) ビルマ

問7 下線部⑦に関連して、次の(a)~(d)のうち、宋代の対外貿易に関する記述で誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがなければ(e)を選びなさい。

- (a) 海上貿易を管理するために唐代に広州にはじめて設置された市舶司は、その後宋代には明州(寧波)・泉州・広州の3カ所に増え、以後明代まで続いた。  
(b) 羅針盤の実用化に代表される航海・造船技術の発達にともない、中国のジャンク船も南インドまで航海した。



- (c) 貿易路としては、宋の北辺の貿易場を通じた遼・金や西夏との内陸貿易の陸路と、高麗・日本方面の東アジア貿易や東南アジア・インド洋方面の南海貿易の海路とがあった。
- (d) 中国からは絹織物・陶磁器・銅銭が輸出され、中国には北方諸国から朝鮮人参・毛皮・馬が輸出され、南海諸国からは香葉・象牙・犀角などが輸出された。

【設問II】 波線部㉔、㉕に関連して、以下の問の答えを記述解答用紙に記入しなさい。

問1 波線部㉔の漢字文化、儒教、律令制、仏教に関連する(1)~(4)の文中

~  に入るもっとも適当な語句を記述解答用紙に記入しなさい。

- (1) 中国の文字は、秦代の篆書にかわって、漢代に、今日の漢字と大差のない隸書が使用されるようになる。また書写材料として、後漢に  によって製紙法が改良され、木簡・竹簡などにかわって、紙が普及した。その後中国の製紙法は、751年に唐とアッバース朝が戦った  の戦いを契機にイスラーム世界に伝えられた。
- (2) 儒教は、漢の武帝の時代に、董仲舒の意見により国教の地位を獲得し、その後国家の正当な学問（儒学）として発達した。儒学の經典研究も盛んとなり、後漢には鄭玄らの学者により注釈を行う  が確立された。さらに科挙の試験科目となったこともあって、唐代に經典の編纂・研究が進み、孔穎達らによって欽定の注釈書『  』が編纂された。
- (3) 隋の文帝により制定された律令は、続く唐代に整備され、三省・六部・御史台を中心とする中央官制が確立された。また、地方は  制をしいた。その後、六部は明代  帝により皇帝直属機関となり、この制度は清末まで続いた。
- (4) 紀元前後に中国に伝来した仏教は、4世紀以降、五胡の諸国で盛んとなり、唐代には国家的保護を受け栄えた。『仏国記』を記した  や義浄のように仏典を求めてインドにおもむく僧も増え、仏典の漢訳と教理の研究が進み、中国独特の宗派なども形成された。また元代には  仏教がモンゴル貴族層で信仰を集めた。

問2 波線部㊦に関連して、欧米列強による中国侵出に関連する以下の文中  
[ I ] , [ J ] に入るもっとも適当な語句を記述解答用紙に記入しな  
さい。

19世紀に入り中国大陸は、強大な経済力と軍事力を武器とした欧米列強  
の激しい進出にさらされた。清朝は、欧米列強との戦争に敗れて不平等条約  
を締結<sup>ていけつ</sup>するごとに領土の一部などを割讓<sup>かつじょう</sup>して、半植民地化の道をたどること  
となった。最初の武力衝突であったアヘン戦争（1840～42年）後にイギ  
リスとの間で締結した南京条約では、[ I ] 島を失い、第2次アヘン戦  
争ともよばれるアロー戦争（1856～60年）後の北京条約では [ J ] 半  
島の一部をイギリスに割讓した。



